

V 平成28年度 第19回群馬県高等学校音楽部会演奏会

“音の宝石箱”～珠玉の名曲でつづるコンサート～

日 時 平成28年9月24日(土)
開場13:30、開演14:00
会 場 高崎シティーギャラリーコアホール
主 催 群馬県高等学校教育研究会音楽部会
後 援 群馬県教育委員会、上毛新聞社、エフエム群馬

1 内容(プログラム)

○オープニング

- 1 出演者全員
歌劇「椿姫」より“乾杯の歌” 作曲 ヴェルディ

○出演者演奏

- 2 ソプラノ独唱 斎藤真里奈(群馬県立沼田女子高等学校)
ピアノ 伴野和章(群馬県立太田東高等学校)
「六つの子供の歌」より“風の子供” 作詞 竹久夢二
作曲 中田喜直
歌劇「ジューリオ・チェーザレ」より
“この胸に息あるかぎり” 作曲 ヘンデル
- 3 テノール独唱 塚田孔右(群馬県立太田工業高等学校)
ピアノ 井上春美(群馬県立藤岡中央高等学校)
歌劇「椿姫」より“燃える心を” 作曲 ヴェルディ
カタリカタリ(つれない心) 作曲 ディッロ
オ・ソレ・ミオ 作曲 ディ・カプア
- 4 テューバ独奏 小川唯佳(利根沼田学校組合立利根商業高等学校)
ピアノ 伴野和章(群馬県立太田東高等学校)
バステューバ・ソナタより第1楽章 作曲 ヒンデミット
- 5 二重唱
ソプラノ 目崎ちひろ(群馬県立高崎高等特別支援学校)
ソプラノ 齋藤千咲(群馬県立高崎高等特別支援学校)
ピアノ 山下美保(群馬県立高崎高等特別支援学校)
「6つの二重唱 OP. 63」より
1. わが願いはこの愛すべてを
2. 渡り鳥の別れの歌
4. 秋の歌
6. すずらんと花々 作曲 メンデルスゾーン

- 6 ソプラノ独唱 兒玉理紗（群馬県立高崎特別支援学校）
 ピアノ 野口瑞穂（群馬県立大間々高等学校）
 「6つのロマンツェ」より “ひとつの星に寄せて” 作曲 ヴェルディ
 ストルネッコ 作曲 ヴェルディ
- 7 ピアノ独奏 大谷邦子（群馬県立下仁田高等学校）
 ハンガリー狂詩曲 第2番 嬰ハ短調 作曲 リスト
- 8 ソプラノ独唱 目崎ちひろ（群馬県立高崎高等特別支援学校）
 ピアノ 山下美保（群馬県立高崎高等特別支援学校）
 歌劇「ファウスト」より
 “なんと美しいこの姿”（宝石の歌） 作曲 グノー
- 9 二重唱
 ソプラノ 兒玉理紗（群馬県立高崎特別支援学校）
 バリトン 清水健太郎（賛助出演）
 ピアノ 野口瑞穂（群馬県立大間々高等学校）
 ベネディクトゥス（二重唱） 作曲 サン＝サーンス

○フィナーレ

- 10 出演者全員
 オペレッタ「こうもり」より “乾杯の歌” 作曲 J・シュトラウスⅡ

○アンコール

- 11 出演者全員、（会場の皆様方ご一緒）
 ふるさと 作詞 高野辰之
 作曲 岡野貞一



2 係役員（敬称略、順不同）

○演奏会係

- 総務 ・清水郁代校長（二葉特支） 塚田（太工）
 ポスター、チケット ・金田（前橋女子）
 会計 ・青柳（桐生女子） 饗庭（市立太田）
 司会原稿 ・青柳（桐生女子） 鈴木（桐生南）

○当日係

- 受付、チケット ・須田（吉井） 杉田（渋川女子）

当日券販売	・饗庭（市立太田）	
ステージ	・勝山（万場）	伴野（太田東）
アナウンス	・鈴木（桐生南）	
記録	・塚田（太工）	饗庭（市立太田） 伴野（太田東）
司会進行	・青柳（桐生女子）	鈴木（桐生南）
会計	・青柳（桐生女子）	饗庭（市立太田）

○あいさつ 群馬県高等学校教育研究会音楽部会会長 上田 裕信（群馬県立太田東高等学校校長）

本日は、御多用のところ第 19 回群馬県高等学校音楽部会演奏会に御来場くださりまして、誠にありがとうございます。日頃から本部会及び本部会諸事業に対しまして、特段の御配慮を賜り心から感謝申し上げます。

さて、「学び続ける」ことは、人生を歩んでいく上でたいへん価値のあることです。特に、生徒に学ぶ楽しさを伝える使命を持った教師にとって、自分自身が学び続けることは不可欠なことだと言えます。音楽科においては、授業スキルを高めることはもちろん、教師自身の専門性を高めることが、音楽の素晴らしさを生徒へ伝えることに大いに役立ちます。ただ、普段は校務に追われ、なかなか自己研鑽をする時間が取れてないのが現状でもあります。そういった日常の中で、隔年で開いているこの演奏会はその一つの目標となり、教師自身が改めて自身と向き合い、教師としての力及び音楽性に磨きをかけるきっかけとなっております。

出演する部会員たちは、この日の為に時間を作って練習を重ねて参りました。限られた練習時間で未完成の部分もあるかと思いますが、最後までごゆっくりお楽しみいただければ幸いです。

3 総括

部会演奏会は、隔年実施を基本としており、オペラ形式とオペラ以外の演奏会形式を交互に行っている。平成 26 年度全日本音楽教育研究会全国大会高等学校部門群馬大会において、群馬県の誇る創作オペラ「みづち」を上演したため、今回は演奏会形式となった。音楽教員として教鞭を取る傍ら、自身の専門分野に精通し、研鑽を積み、プロにも負けない高い技術や表現力等を持っている。

「音の宝石箱」と銘を打っての上演の目的は、群馬県の高校生を中心とした多くの方々に、日々研鑽を積み重ねている先生方の「宝」（音楽的技術や才能）を宝石箱から取り出して、音楽のすばらしさを教室以外の場所でも伝えて欲しく、その場を提供することであった。また、ただ演奏するだけの他のコンサートには無い、音楽の教員でしかできない要素を取り入れたい思いもあり、作曲家の意図やエピソードを授業で教える内容を、より分かりやすく紹介する方法を模索した。

出演者を募集した段階では、希望が少なく心配したが、係の先生全員の呼びかけに呼応する形で、若手を中心に参加者も増え、器楽、声楽、アンサンブルもある、様々な形での活気あふれるメンバーでの演奏となった。練習会場には、県立高崎高等特別支援学校をお借りすることができ、9月2日、9日、16日の三日間で合唱練習を中心に実施した。練習中も様々な意見や工夫が飛び交い、明るい雰囲気での練習をすることができ、練習予定時間を過ぎる日もあったが、参加者全員が音楽との楽しい時間を過ごすことができた。演奏会当日、午前中リハーサル、午後本番だったが、司会の二人の進行も場を盛り上げ、大変に好評だった。受付やステージ係もスムーズで、安心して演奏に集中することができた。演奏

会は、華やかで宝石箱から溢れ出す素敵な空間、時間を過ごすことができた。

残念な点は、天候の悪さも重なり、来場者の数が少なかったことである。また、本来多くの高校生に高校の先生方が演奏する姿を見たり聴いたりして欲しいために高崎を会場設定としたにも関わらず、高校生の観客が少なかったことも挙げられる。更に、演奏会出演のテーマや出演条件などの縛りを低くしたにも関わらず、音楽部会員の参加が思うようにならず、全国大会のような活気と参加者、協力者が得られなかったことは残念である。

今回の反省として、開催時期（多くの先生方がご家族の運動会や行事などと重なり出演を断念されている）、高校生用の招待方法、演奏会の宣伝活動やチケット販売、集まりやすい会場選び、練習計画などがある。今後の充実した部会演奏会に向け、中心となる係はもちろん、部会員一人一人が建設的に考えていただければ幸いである。

結びにあたり、部会演奏会を省みるに、参加者と過ごした練習での楽しく真剣なやり取り、本番の貴重な体験や部会員の方々との交流を通じて、私たちが大きく成長できる場であるこの行事の大切さを改めて確認する機会となった。

4 参加者及びチケット販売協力者（敬称略・順不同）

東 喜峰（前橋）	金田 英樹（前橋女子）	牧野 勇（前橋東）
住谷 伴（前橋商業）	黒岩 伸枝（高崎）	稲毛 信哉（高崎東）
峯岸 美咲（高崎北）	角田 幸枝（榛名）	須田 諭美（吉井）
田村 和之（吉井）	安斉 太（高崎商業）	鈴木香奈子（桐生南）
青柳 亮（桐生女子）	力石 泉（伊勢崎）	近野 裕子（伊勢崎清明）
増尾 和俊（太田）	今井英実子（伊勢崎興陽）	井田有希子（伊勢崎工業）
武井 康博（伊勢崎商業）	上田 裕信（太田東）	伴野 和章（太田東）
多田あやか（太田女子）	松平 康子（尾瀬）	山木 節子（新田暁）
塚田 孔右（太田工業）	斎藤真里奈（沼田女子）	持田 桜（玉村）
島田 聡（館林女子）	杉田沙紀子（渋川女子）	秋元 麻美（渋川青翠）
山屋 寿徳（渋川青翠）	井上 春美（藤岡中央）	米山 伊織（富岡）
金田 知子（富岡東）	茂木 公代（安中総合）	齋藤絵梨子（安中総合）
野口 瑞穂（大間々）	勝山 英城（万場）	大谷 邦子（下仁田）
坂本 将（長野原）	須藤 広大（吾妻）	林 剛嗣（西邑楽）
小川 一郎（西邑楽）	根岸 玲恵（西邑楽）	千明 昇平（西邑楽）
野出有美子（大泉）	織田 大地（中央中等）	兒玉 理紗（高特支）
山下 美保（高高特支）	大小原美幸（高高特支）	萩原 美幸（高高特支）
目崎ちひろ（高高特支）	齋藤 千咲（高高特支）	清水 郁代（二葉特支）
松村 正史（二葉高特支）	坂本 祥子（二葉高特支）	関口 行雄（館林高特支）
柳田絵美子（館林高特支）	岡松 亮（館林高特支）	廣澤 秀伸（藤岡特支）
須田 玲子（渡良瀬特支）	飯島 千尋（渡良瀬特支）	板垣 貴子（渡良瀬特支）
清田 和泉（吾妻特支）	饗庭 麻里（市立太田）	小川 唯佳（利根商業）
吉田 宏昭（健大高崎）	藤嶋 啓子（関学附）	柿沼 晴吾（前橋育英）
水上 浩（高商大附）	樋口 一朗（東農大二高）	須永 瑛美（新島学園）
諏訪 幸男（個人会員）	森村恭一郎（個人会員）	荻野 葉子（高校教育課）

文責：塚田 孔右（太工）